

のびのび学級 国語科学習指導案

のびのび学級 4名

指導者 増 田 尚 美

1 単元名 のびのび掲示板に書いて、みんなに伝えよう

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

①学習者の実態

本学級の学習者は、A、B、C、D の計4名で、1年生と4年生と6年生という学年差のある学級である。また、平仮名を指導者と対面で学習している学習者や個別に課題を設定すると一人でどんどん学習を進められる学習者もいて、能力差がある。そこで「太田のステージ」という発達課題がはっきり分かる検査をした。その結果3名はステージⅢ－2で1名はステージⅣだった。4名の実態は次の通りである。

A	・ 太田のステージⅢ－2 ・ 人の話を静かに聞き、聞かれたことには、単語で答えることができる。 ・ 平仮名のほとんどを読める。家族の名前（あ〇〇のあ等）や時間割（こくごのこ等）を中心に20字程度書くことができる。平仮名のなぞり書きができる。 ・ 平仮名を中心に学習中で、文字をことばや文のまとまりとして読むことはできないが、音読は、指導者の読みを覚えてまとまりを意識して復唱している。口の開け方が不十分で、発音がはっきりしない音がある。
B	・ 太田のステージⅣ ・ 人の話をよく聞き、尋ねられると二語文程度で答えることができる。知りたいことがあると話したり書いたりして質問することができる。交流学級で、スピーチ等をする時は、指導者と相談したり自分で考えたりして書いたメモを友達に読んでもらい伝えている。 ・ 学習した漢字は、ほぼ全部覚えて使うことができる。順序を考えて文を書くが、語彙は少なく、「楽しかった」等の感想で終わることが多い。 ・ 文章を読んで内容を理解することができる。音読はすらすらできるが、「か行」の発音で空気が抜けて不明瞭になることがある。
C	・ 太田のステージⅢ－2 ・ 授業中、机上の物等が気になり十分話を聞くことができなかったり、次の行事等が気になり勝手に話したりすることがある。休み時間には、遊びのアイデア等を友達と話している。 ・ 生活の中で使う漢字は大まかな形で覚えている。よく使い、自信がある漢字以外は平仮名で書くが、使うように促すと指導者に尋ねたりして書いている。作文は書く話題が分かり、集中すると指導者の支援を求めながら書き進めることができる。 ・ 漢字の読みが十分でない。文字をことばや文のまとまりとして読むことができず、内容を理解できていないことがある。漢字にルビを振ると、繰り返し音読して覚えている。
D	・ 太田のステージⅢ－2 ・ 交流学級では友達や指導者の話を集中して聞くことができないことが多い。1対1では聞いているが、話の中のことばに反応し、人の話を遮り自分が話したいことを話すことがある。 ・ 漢字は、書き順にも気を付けて視写するが、文を書く時に使うことは少ない。できごとを写真や会話を手がかりに文に書くが語彙は少なく、感情を表現することは十分でない。 ・ 漢字の読み之苦手意識があり、自分で読もうとしないことが多い。読むことはできても内容の理解は十分でない。漢字にルビを振ると、音読はできている。

本学級では各学年国語と算数の時間を中心に学習している。黒板に課題を順序よく書き、タイマーや時計盤を使って視覚的に学習時間等を示すことにより、見通しをもって落ち着いて学習を進めることができるようになってきた。

本学級の学習者は、言語活動の基になる読む力が十分とは言えない。ことばを文字のまとまりとして読めなかったり、文や情報の中の一つのことにとらわれ、読み取るべき内容が読み取れていなかったりする。自分に必要な内容や情報を得るためには、文の構成を知り、必要な内容を選び出すが必要になる。必要な内容がどこに書かれているかを知るためには、文字をことばとして書いたり、ことばをつなげて文にしたり、文と文を構成して文章に書いたりする活動が必要だと考える。音読や黙読では内容を理解しにくい学習者は、自分の体験から得た情報を整理し、内容を考えて選び、文や文章になるよう構成を考えて書くことで、自分が伝えたい内容を視覚的にもはっきりと理解できる。書く活動を重ねることで、自分に必要な内容がどこに書かれているかわかり、内容を読み取ることができるようになると思う。

また、本学級の学習者は、コミュニケーションを取ることが苦手である。職員室や保健室等の限られた場所では、支援を得てコミュニケーションを取ることができるが、大人数の交流学級等では、十分自分の考えを伝えることはできていない。そこで、少人数の支援学級で4名が一つの課題を一緒に学習し、交流を図る活動を取るようにした。学習者同士が話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする活動の中で、話す力や聞く力、書く力を付け、コミュニケーションをしっかりとれるようにしたいと考え、本単元を設定した。そして、自信をもち交流学級やその他の場でもコミュニケーションが取れるようにしたい。

②単元について

本単元は三つの小単元で構成されている。第1次「こんなことをしたよ」では、同じ体験したことを話し合い、思い出して書き、感想を話し合う。写真や絵を手がかりに情報を読み取り、内容を文に書き、みんなで見せ合い情報を共有できるようにしたいと考えた。掲示板を書く活動の中で「ことばの意味内容をふくらます。」ことに重点を置き、個人の実態に合わせて、文字の読み書きや語彙を増やすように支援したい。第2次「知らせよう」では、自分や指導者が撮った写真を見て得た情報を文に書き、たくさんの人に見せたり、書いた内容を話したりして伝える。ここでは、「コミュニケーションを活発にする。」ことに重点を置き、質問する人、答える人などの役割を踏まえた話し方を覚えたり、体験したことを話したりできるように支援したい。第3次「作ろう思い出ブック」では、自分たちが書いたカードを集めてブックにし、家族や他の人にも見せたり話したりして伝える。ここでも「コミュニケーションを活発にする。」ことに重点を置きたい。

コミュニケーションを取ることが苦手な学習者が自分の考えや伝えたいことを伝えるためには、話したり書いたりして表現することが必要だ。本単元では、掲示板で伝える題材を共通体験の中から選び、書いたり、それについて話したりする活動をしてきた。

書く力を付けるために、学習者と指導者が話をしながら掲示板カードを書いてきた。初めは、写真を手がかりに出来事を順に書いていたが、書き方の手引きを用意し、「始め」「中」「終わり」に書くことを整理して書き、最後に思ったことを書くように支援すると、しだいに整理しながら書くようになってきた。今は1対1で対話しながら書いているが、自分一人でも書きたいことを選び、「始め」「中」「終わり」と順序よく書くことができるようにしたい。

話す・聞く力を付けるために、自分たちが書いた掲示板カードを見せ合いながら、話し合う活動をしてきた。しかし、友達の話に関心を示さない学習者や思ったことをことばとして表せない学習者がいて、うまくコミュニケーションが取れているとはまだ言えない。人が話したことを聞き、内容を理解できるように、話し手や聞き手が質問し、質問に答える活動を取り入れ、話す・聞く力を付けていきたい。そして、人の話を聞いて、思ったことや感じたことをその場で話すことができるようにしていきたい。

読む力を付けるために、書いた掲示板カードからクイズを出し合う活動をしている。自分や友達を書いた内容の中から、大切な情報を読み取り、それをクイズや質問の形で友達に話す活動は、これからの生活の中で必要な情報を読み取る力につながると考える。また、掲示板カードを常掲することで、学習者は読みたい時に掲示板の前に集まり、読んで内容を理解できるようにしている。読むことで、楽しかった活動がよみがえり、会話が弾むこともあった。掲示板カードに関心を示す支援学級以外の友達にも自信をもつ

て、自分のカードを読んで聞かせ、コミュニケーションを取れるようにしていきたい。

(2) 活用する力の育成を図るために

本単元における活用する力を育成する場合は、特に第2次の「知らせよう」で見付けた宝物を説明するために文を書き、みんなの前で発表し、大事な内容「いつ」「どこで」「何を」「どのように」等を聞き取り、さらに内容をはっきりと理解するために、クイズを出し合う場である。学習者が「のびのび掲示板カードの文を書いて説明する」過程で、指導者は、漢字を使ったり、情報を整理しながら書いたり、みんなの前で話したり、内容を聞き取ったり、質問したり答えたりする力を育成したい。本時は、第2次「知らせよう」の第17時にあたる。ここでは、学校で見付けた宝物を他の人たちに分かるように話す。そのために個人に合わせて書けるような掲示板カードを用意したり、書いたカードの大切な内容にシールで印を付けたりして、文の中に書いてある情報をクイズという形で、話し手、聞き手双方が読み取ることができるようにしたい。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

のびのび掲示板を書いて、みんなに伝えよう。

(2) 指導目標

- A 文に書いた見付けたことや知らせたいことを、みんなの前で話すことができるようにする。
- B 写真を見ながら書いた話題について友達と話したり、他の人の前で発表したりできるようにする。
- C 写真などを手がかりに書いたことを、みんなに話して伝えることができるようにする。
- D 話題に沿って書いた文を、みんなに分かりやすく話して伝えることができるようにする。

4 単元の評価

	関心・意欲・態度	書くこと	話すこと・聞くこと
評価 標準 ・ 資料	出来事や自分の思いを伝えることに興味をもち、掲示板に書いたり、話したりして、進んで伝えようとしている。	書きたい内容を明確にし、人に伝わるような書き方で書いている。	書いたことをもとに、学級やその他の人たちの前で、声を出して話したり、質問したりすることができている。
	学習者の様子・発言 掲示板カード	学習者の様子・写真 掲示板カード	学習者の様子
A	○ 宝物について自分から進んで書いている。 ◎ 自分で書けるよう、あいうえお表を用意する。	○ 文型に当てはめながら、書いている。 ◎ 自分で書けるよう、あいうえお表を用意する。	○ 書いたことをもとに進んで読んでいる。 ◎ 自信をもてるように、書いた文を何回も音読練習し、合格シールを貼る。
B	○ 活動の仕方を知り、進んで活動している。 ◎ 内容の順序を整理できるように、写真を使い考えるようにする。	○ 伝えたい内容を落とさず文に書いている。 ◎ 書く内容を増やすように、付箋を用意する。	○ 書いた文を教室の後ろの人に聞こえる声で話している。 ◎ 読みやすいよう、線を太くし、順番シールを貼る。
C	○ 写真を見て、思い出しながら書いている。 ◎ 話題に沿って書くよう、手引きに整理して書くようにする。	○ 漢字を使って文を書いている。 ◎ 使える漢字は書くように、漢字表を見せる。	○ 相手に分かりやすく、内容を落とさず話している。 ◎ 書いた文が読みやすいように、順番シールを貼る。
D	○ 伝えたい内容を落とさないように書いている。 ◎ 内容を落とさず書くよう、手引きを用意する	○ 話題に沿って、書いている。 ◎ 構成を考えて書くよう、手引きを用意する。	○ 相手を見て、はっきり口を開けて話している。 ◎ 自信をもち読めるように、文に頑張りシールを貼る。

5 学習計画

学習活動	学習者の意識の流れ	主な指導・支援	身に付けさせたい力
第1次（8時間） ○ のびのび掲示板に自分の思い出を書いていくことを知る。 ・ 1年生を迎える会のことを書く。 ・ B君の誕生会のことを書く。 ・ 遠足のことを書く。 ・ バザーのことを書く。	1年生を迎える会の楽しかったことを思い出して書いて、みんなで見せ合おう。 兄ちゃんにおんぶしてもらったよ。 A君はちゃんと自己紹介ができて良かったよ。 B君の誕生会は楽しかったね。 B君の誕生会でドッジをして楽しかったよ。 体育館は広くて、ボールが遠くまで飛んだよ。 遠足は、低学年と高学年で分かれて行ったよ。 公園でA君は、水遊びして、楽しそうだね。 写真を見ると公園の滑り台で滑りたくなるよ。 楽しかったバザーのことをみんなに教えたいな。 くじ引きでは、長いこと待ったんだよ。 C君は、食べ物をたくさん買えてすごいね。	☆ 文でも絵でもかけるように白紙を用意する。 ☆ 掲示板を用意し書いた物をみんなで見られるような環境を整えておく。 ☆ どんなことをしたのか話す中で思い出して、書くことを見付けられるようにする。 ☆ 思い出したことを絵と文に書くことができるように写真を提示する。 ☆ 友達のカードを見て、分かったことを話せるように、順番を考えて指名する。	A 写真を手がかりに、思い出したことを指導者と一緒に書く。 B 写真を見て、出来事の順番を思い出して書く。 C 写真を見て、思い出したことを分かりやすく書く。 D 出来事の順を追って文に書く。
第2次（17時間） ○ 経験や調べたことを人に知らせよう。 ・ 夏休みの楽しかったことを書く。 ・ 運動会で楽しみなことを書く。 ・ A君の誕生会のことを書く。 ・ バス遠足のことを書く。 ・ 自分が見付けた新開小学校の宝物のことを書き、発表する。	夏休み、初めて泊まって楽しかったよ。 行った所をどうしたら、説明できるかな。 インターネットに写真があるらしいよ。 運動会は初めて。どんなことをするか心配だな。 運動会の写真で、教えてあげたいな。 たくさんの人がテントで、応援しているよ。 デジカメでA君の誕生会を撮ってみよう。 デジカメの撮り方を先生に聞いて覚えよう。 デジカメを使うと出しが残せるね。 見付けた場所、物、人をみんなに知らせたいな。 何を撮ろうか。お気に入りの場所にしよう。 おいしい給食を作ってくれる調理員さんを撮ろう。 撮らせてもらえるように頼みに行こうかな。 見付けた場所の説明を文に書いてみよう。 みんなを驚かせたいな。大きななべも撮ろう。 デジタルカメラで写真を撮り、カードに貼ろう。 どんな物がよいか、考えてから出かけよう。 写真を切り取り、書く順番を考えて貼ろう。 写真を見て、分かるように文を書こう。 ()の中のことばを、考えて書いてみよう。 漢字表を見て、漢字を使って書いてみよう。 新開の宝物をいろんな人たちに紹介しよう。 前に立ち大きな口を開け声に出して読もう。 後でクイズを出すよ。みんな分かるかな。 宝物のことが伝わっていたら、うれしいな。 たくさんのカードを本にまとめよう。 まとめの文と表紙をかこう。 まとめて綴じると本になるよ。	☆ 場面を想起できるように写真やインターネット情報を提示する。 ☆ 昨年度の運動会の楽しい活動がA君に伝わるように写真を用意する。 ☆ デジタルカメラの使い方や困った時の対処法などを絵や文で提示する。 ☆ 撮った中から自分たちで選んで、保存、プリントアウトできるように手順書を準備する。 ☆ 困った時は、人に助けを求めるように、生活場面毎の話し方を書いておく。 ☆ 初めに各自が撮りたい物を大体決めてから撮りに行くよう促す。 ☆ 選んだ宝物のことが伝わるように書くための手引きを用意する。 ☆ たくさんの人の前でも話せるように、立ち位置や視点を向ける場所などを決めておく。 ☆ 自分ですぐに書けるように、カードを置き、書いた時はみんなに紹介するようにする。 ☆ 本単元を通して感じたことを短いことばで表現できるように、文の書き出しと枠を書いておく。	A 平仮名の表を見ながら、伝えたいことを文に書く。 B 文に書いた伝えたいことをみんなの前で話す。 C 自分で見付け、進んで書いたことを、話題に沿って発表する。 D 文に書いた伝えたい内容をはっきり口を開け、落ち着いて話す。
第3次（4時間） ○ 掲示板カードを本にまとめよう。			A 自分や友達が書いた文を楽しんで読む。 B カードをまとめて本にし、後書きを書く。 C 書いたカードを本にまとめ、友達や家族に紹介し、交流を図る。 D 友達の思い出ブックを読み、感想を伝える。

6 本時の学習

(1) 目 標

①学習者の活動目標

のびのび掲示板に書いた「学校で見付けた宝物」のことを発表し、みんなに伝えよう。

②指導目標

自分で撮った宝物の写真を見て書いた文を、みんなの前で発表することができるようにする。

(2) 展 開

学 習 活 動	指導・支援	具体の評価規準				評価の資料
		A	B	C	D	
1 始めの挨拶をし、本時のめあてを確認する。	○ 元気に挨拶や発表ができるように声の大きさやよい姿勢のポイント等のめあてを黒板に提示する。					
新開小学校で見付けた宝物のことをみんなに紹介しよう。						
2 自分で撮った宝物の写真を見て書いたカードの文を読む練習をする。	○ ことばのまとまりに気を付けて文を読むことができるように、文節ごとに印を入れたり、一緒に声を出して読んだりする。					
3 掲示板カードを見せながら、前に立ち発表する。	○ 読み落としが無いように、「いつ」「どこで」「何を」「どう思ったか」等の伝えたい内容の部分に付箋やシールを貼ったり、みんなに見えやすく発表できるように、立ち位置を示す印を床に貼ったりする。	・カードを見せながら、口の開け方に気を付けて発表している。	・立ち位置や体の向き、声の大きさを考えて、みんなに聞こえる声で発表している。	・話題に沿って伝える内容を読み落とさないように発表している。	・立ち位置を守り、みんなの方に目を向け、話題に沿って発表している。	学 習 者 の様子
その後自分が書いた内容から、一つクイズ	○ 予め、発表の中からクイズを選んで出せるように、クイズの文型を示し、「発	・クイズの文型に合わせて、みんなに質問した	・クイズの内容を一つ選んで出題したり、友達	・クイズの内容を一つに絞り出題し、聞いた	・クイズの文型に合わせて出題したり、友達	学 習 者 の様子

を出し、聞いた者はそれに答える。	表の手引き」に書いておくようにする。 ○ よく聞き、正しく答えることができたなら、頑張りシールを渡すようにする。	り、友達のクイズに答えたりしている。	の質問に手を挙げて答えたりしている。	友達の発表内容から、正確に答えている。	発表内容から答えを見付けて答えている。
4 発表を終えて、友達や自分の発表で頑張ったところを話し合う。	○ 本時の活動を振り返り、自分や友達が頑張ったところを一言ずつ話したら、シールを渡し、賞揚する。				
5 終わりの挨拶をする。	○ 挨拶の姿勢カードを黒板に貼り、号令に合わせて挨拶できるようにする。				

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	A：口形を意識して、聞き取りやすく文を読んだり、友達の方を向き、発表を聞いている。 B：みんなの前で、口の開け方や声の大きさを考え発表し、友達の質問に答えている。 C：話題に沿って発表したり、質問したり、答えたりしている。 D：大勢の前でも、落ち着いて発表したり、質問に答えたりしている。
「おおむね満足できる」状況にするための手だて	A：口の開け方やよい姿勢を意識して発表することができるように、絵や文字カードを用意する。 B：人を意識しすぎないように、事前に本時の状況を話しておき、口の開け方等を絵カードで示す。 C：友達の話をしっかり聞いて答えることができるように、姿勢や注視点等を適宜ことばで指示する。 D：ゆっくり話すことを意識できるように、発表の初めに手拍子を打ったり、集中して話を聞くことができるように、聞き方の約束をカードに書いて提示したりする。